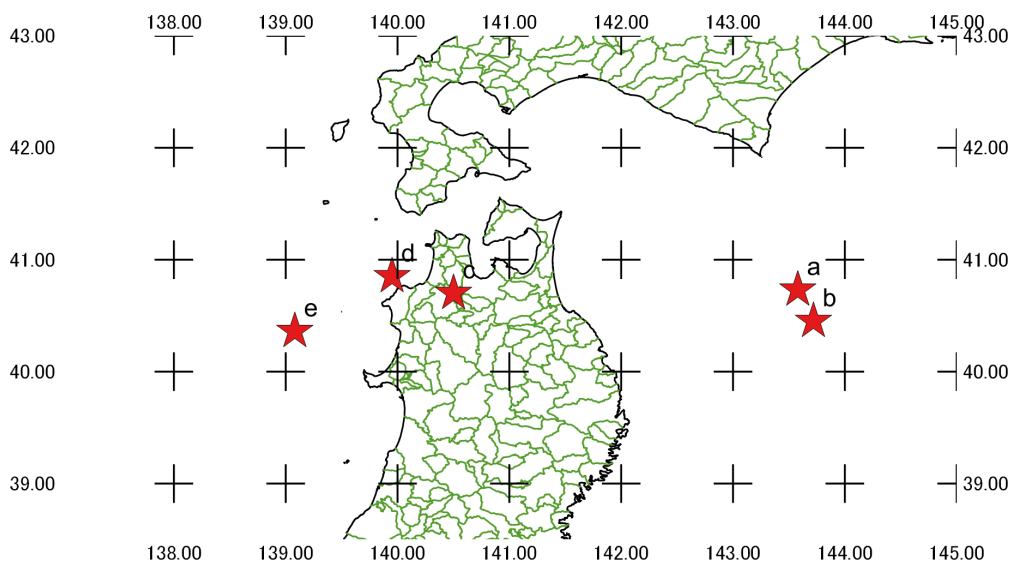


期末試験(片岡分)

青森県に被害を与えた地震として、1968 年十勝沖地震、1994 年三陸はるか沖地震、1983 年日本海中部地震が有名である。このことを踏まえて、次の 1～3 の間に答えよ。解答は解答用紙に記入すること。

1. 次の文章を読み、問いに答えよ。

下図は上述の 3 地震に加え、江戸時代の被害地震である、寛政の西津軽地震(1793 年)、明和の津軽地震(1766 年)の震央を示したものである。震央を示す星印の脇には a から e のマークが付されている。震央と地震とを結びつけよ。なお、解答欄にあるように a の震央は 1968 年十勝沖地震のものである。



2. 次の文章の空欄を埋よ。選択肢が記載されている場合には、適切な語句を選択せよ。

上述の 3 つの地震のうち、規模が最大な地震は(ア)である。(ア)の地震の際の最大震度は(イ)であった。3 つの地震のうち、観測された震度が最大であったものは、(ウ)地震であり、(エ)で震度(オ)が観測された。日本全土を見ても、2011 年東北地方太平洋沖地震を除いて、震度 7 が観測されたのは内陸の地震の際に震央に近い観測点においてであり、これまで青森県内で観測された最大の震度が 7 となっていないのは当然とも言えよう。なお、最近青森県が実施した地震被害想定では、太平洋側海溝地震の際には、最大で震度(カ)になると試算されており、内陸直下型の場合には最大震度は(キ)と試算されている。

1968 年十勝沖地震の青森県の死者を周辺の道県と比較すると、(ク a.圧倒的に多かった, b.北海道と同等であった, c.岩手県に比べ少なかった,)。1968 年十勝沖地震の際には、斜面崩壊や(ケ a.鉄筋コンクリート製の, b.木造の)建築物の被害が特筆されよう。(ケ)については、耐震設計法の見直しにつながった。

1983 年日本海中部地震の際の被害は、一般的には秋田県の方が青森県に比べ多かったが、(コ)の被害の数量は青森県と秋田県でほぼ同等であった。

砂地盤の液状化はほぼ全ての被害地震の際の発生している。上述の 3 つの地震でも発生しているが、液状化により能代市の市民生活に多大な影響が生じたことから、(サ)地震の後には、液状化の研究

が急激に進んだ。青森県内では、(シ a.八戸市, b.青森市, c.弘前市, d.つがる市)における被害が著しかった。

3. 災害軽減に関する次の文章を読み、問いに答えよ。

災害軽減には、行政の力だけではなく、住民の努力も必要である。そこで、最近では災害軽減の主体を「自助、(i), 公助」として表現することがある。このうち、自助は自らの安全を自らで守ることであり、(i)は近隣あるいは様々な人と協力して、地域を守ることを指している。公助は行政機関による対応を指す。

(1) 空欄(i)に相応しい言葉を入れよ。

(2) 公助について、全ての行政機関は災害対応を行うが、住民に直接対応する組織は何か。国、都道府県、市町村、消防署のいずれから選択して答えよ。

解答用紙

1.

記号	地震名
a	1968年十勝沖地震
b	
c	
d	
e	

2.

ア		キ	
イ		ク	
ウ		ケ	
エ		コ	
オ		サ	
カ		シ	

3.

1	
2	

学籍番号

氏名

解答用紙(正解)

1.

記号	地震名
a	1968年十勝沖地震
b	1994年三陸はるか沖地震
c	明和の津軽地震
d	寛政の西津軽地震
e	1983年日本海中部地震

2.

ア	1968年十勝沖地震	キ	7
イ	5(地震後に発表された震度は5なので、5が正解であるが、気象庁の調査結果では一部の地域は6となっているので、6と書いた場合は部分点とした)	ク	A
ウ	1994年三陸はるか沖地震	ケ	A
エ	八戸	コ	水田の流出・埋没
オ	6	サ	1983年日本海中部地震
カ	6強	シ	d

3.

番号	解答
1	共助
2	市町村

学籍番号

氏名